

社会福祉法人 平徳会

2020 年度 事業報告書



社会福祉法人 平徳会

〒343-0007

埼玉県越谷市向畑 231

TEL 048-978-2111

FAX 048-978-2500

URL <http://www.heitokukai.jp>

Mail heitokukai@kir.biglobe.ne.jp

2021 年度 事業報告書

目次

○ 法人本部 事業報告書	1
○ こしがや希望の里 事業報告書	2
○ かなめ 事業報告書	3
○ 希のこ 事業報告書	4
○ 越谷市東部障がい者等 相談支援センター 事業報告書	5
○ その他	6

【法人本部】

今年度取り組んだ事
<u>収支報告</u> 法人全体として黒字。今年度でかなめ(2年目)・希のこ(1年目)も黒字化
<u>人事関係</u> 職員状況…採用人数 28名(正職員:4名 契約職員:2名 パート:22名※うち6名退職) 退職者 11名(正職員:2名 パート:9名) 福利厚生…職員向け入院保険・ガン保険加入、特定処遇改善等加算手当追加
<u>ハード面対応</u> こしがや希望の里…PC入替・wifi環境強化・事故防止用カメラ設置・ボイラー交換・浄化槽修繕 委託相談…PC増設・相談支援ソフト導入 希のこ…PC購入・自転車置場屋根設置
<u>補助金関係</u> コロナ関係(国・越谷市)、その他補助金なし
<u>その他</u> 業務改善…給与支払い方法の変更、過去書類処分 コロナ対策…パーティション・消毒器、消耗品等の確保 コスト面…日常的(水道光熱費等)のコストの削減
今後の課題
<u>人事関係</u> 安定した職員態勢…職員の定着(離職率の低下)、職員の増員(主にかなめ)
<u>グループホーム 2棟目</u> R5.4月開所に向けた準備
<u>修繕関係</u> 関根の退職による修繕費・消耗品費の増加
来年度に向けて
<u>採用活動</u> 人員配置体制加算を考慮し、収入・支援の質を踏まえ職員の増員を図る 新卒採用・中途採用…職員が不足している状況ではないため、質を重視した採用活動 パート採用…主にかなめ
福利厚生…職員のモチベーションアップに繋がる福利厚生の検討
<u>修繕関係</u> こしがや希望の里…エアコン総入れ替え、修繕係と連携した修繕対応
<u>グループホーム 2棟目</u> 施設整備費補助金申請書の作成・申請
<u>その他</u> 業務改善…電子申請化(雇用保険・社会保険等)、会計ソフトの検討

【こしがや希望の里】

今年度取り組んだ事
<ul style="list-style-type: none">○ 利用者支援目標：『体を動かす機会を多く取り入れ、健康的に生活できるよう支援する』<ul style="list-style-type: none">➢ 外でのラジオ体操を再開した。➢ 新型コロナウイルスの影響により、4ヵ月弱、1・2F 分かれての活動となった。必然的に散歩・グラウンド開放・ハイキング等の活動が多くなり、結果的に体を動かす機会は増えた。○ スタッフ業務目標：『基本的な業務の見直しをし、利用者をより知る一年とする』<ul style="list-style-type: none">➢ 勤務歴だけで見ると、5年以下の支援員が全員となり非常に若返ったと言える。➢ 新任層が、利用者との関係作りに苦慮している様子があったものの、最低限の対応、業務は行えるようになった。
今後の課題
<ul style="list-style-type: none">○ 利用者支援<ul style="list-style-type: none">➢ 新型コロナウイルスの影響による自粛活動により、ストレスを溜める利用者が多く見受けられた。➢ 女性の特定利用者の女性スタッフへの他害行為が頻発し、現在 1F の居室を利用している。○ スタッフ業務<ul style="list-style-type: none">➢ 良くも悪くも、スタッフの二極化（先輩⇔後輩）が進んでいる状況である。業務の均一化を目指す。➢ 細かな業務が増え、マニュアル化されていない業務が多数存在している現状がある。
来年度に向けて
<ul style="list-style-type: none">○ 利用者支援『施設内・外でできるイベントを充実させる事で、利用者ストレスの軽減を図る』<ul style="list-style-type: none">➢ 施設内楽しみ向上プロジェクトチームの立ち上げ➢ ピクニックの実施➢ 気分転換できる時間を提供する○ スタッフ業務『1・2F の連携を深め、利用者支援及び業務改善点は施設全体の問題として取り組む』<ul style="list-style-type: none">➢ 細かな業務・過度な負担がかかっている業務を洗いだし、整理すると共に業務の均一化を目指す。➢ 連絡会議の細分化をする事で、チームワークを高める。➢ オンラインでの交流会の実施。

【障害福祉サービス事業所 かなめ】

今年度取り組んだ事
<p>・新型コロナウイルスの対応について</p> <ol style="list-style-type: none">① 利用者同士の接触回数が少なくなるように配慮した。(送迎車、日中活動、1階、2階等)② 対面にならないように食席の変更。③ 利用者のマスク着用について見直し。 <p>・利用者支援について</p> <ol style="list-style-type: none">① 余暇の充実(おやつ作りや紙トンボ作り、外出の代替で喫茶タイム等)② 活動場所の拡充(利用者休憩室の設置)③ 個々の嗜好に応じた余暇物品の確保。(雑誌やCD)
今後の課題
<ol style="list-style-type: none">① 利用者数が増えるにあたり、必然的に年齢、障がい特性が多様になるため「同じ活動内容」を行う事が難しくなる。② 各クラブ活動の内容を見直す。(マンネリ化しないように。担当スタッフがなくても同じ質で活動が行えるように。)③ コロナ禍でも利用者が楽しい経験ができるように新しい企画を立案する。④ 2022年度新規利用者の情報収集を正確に行い、車両の準備、スタッフの適切な人員など慌てることがないように、着実に準備をする必要がある。⑤ 平徳会が目指す、利用者支援について、スタッフの在り方について全スタッフが考える必要がある。
来年度に向けて
<ol style="list-style-type: none">① 新たにリラクゼーション班を始める。ウォーキング班の見直し(3班→4班へ)② 各利用者が取り組める活動内容を立案し実施できるように担当者は事前準備を行う。また、年間予定表、実施要項の作成を行い、どのスタッフが入っても同じ質で活動が行える様にする。③ キッチンカーを呼んでの飲食や地域の特産品、ご当地グルメ、他国の料理を食す企画を立案する。その際には、音楽や映像などを使用し、よりその場にいる雰囲気作りを行えるようにする。④ 各特別支援学校の進路担当の先生と連携を取り、正確な新規希望利用者数の情報を聞き、送迎車両やスタッフの確保を早い段階からすすめていく。⑤ 「丁寧な声掛け」、「丁寧な支援」は変わらずに行う。利用者への声掛け及びスタッフ同士の会話でも「言葉遣い、敬語の使用」を意識する事を伝えていく。慣れてしまうと、気づかないうちにそれが利用者に反映してしまう為、会議や人権委員会などを用いて改善に向けた取り組みを行っていく。

【グループホーム希のこ】

今年度取り組んだ事
○グループホームの生活の基盤作り <ul style="list-style-type: none">・利用者様の理解と関係作り・利用者様の一日の流れ・業務の大まかな流れ・必要物品の購入
今後の課題
○利用者支援 <p>①生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者様の意見・苦情を聞く機会が不十分であった。 <p>⇒利用者自治会のような機会、日常的な関りの中から意見を反映する取り組みが必要。</p> <ul style="list-style-type: none">・余暇の充実に対する支援が不十分であった。 <p>⇒下記の外部サービスの利用も検討しつつ、希のこスタッフでも外出をする機会を設ける。</p> <p>②外部サービスの利用</p> <p>希のこのスタッフの勤務体制では外出や通院の支援が難しい。⇒移動支援の利用を検討。</p> ○スタッフ業務 <p>①マニュアル作成が不十分。</p> <p>②定期的な会議が出来なかった。</p>
来年度に向けて
○利用者支援 <p>『食についての楽しみを充実させる』</p> <p>①家庭の環境に近いグループホームの特性を生かして利用者個々の要望を取り入れる。</p> <p>②地域のイベントへの参加も行いその場所ならではの食事も楽しめるような支援を行う。</p> ○スタッフ業務 <p>『チームで支援している意識を持つ』</p> <p>①統一した業務と支援（マニュアル作成・会議の実施）</p> <p>②わかりやすい記録（マニュアル作成）</p> <p>③他事業所との連携（連絡帳の活用）</p>

【越谷市東部障がい者等相談支援センター】

今年度取り組んだ事
<p>○相談支援について 1つ1つの相談内容に対して来所もしくは必要な方に関しては積極的に訪問を行いつつ対応を行った。相談内容にもよるが、本人をとりまく関係機関やご家族等からの意向が強くなってしまい、本人の意思やペースと合っていない等を感じる事があった。本人の意思を確認した上で支援の方向性を定めるように心がけた。</p> <p>○ピアカウンセリング 越谷市東部地区にお住まいの障がいをお持ちで就労を目指している方、現在お仕事をされている方を対象に9月19日(土)「しごとーく(グループトーク)」という名のピアカウンセリングの場を設けている。初めての試みであることに加え、新型コロナウイルス感染への不安もあったが、参加者の健康や環境面での配慮をしつつ実施。12名の方と関係機関(しらこぼと・こぼと館・南部障がい者等相談支援センター)が参加して下さる。「東部地区外だが参加しても良いか?参加された方が利用している事業所から、次回参加させてほしい」というお話も複数頂いている。</p> <p>○関係機関との繋がり 緊急事態宣言の発令等もあり、訪問や来所を控えている時期があった為、積極的にとはいかないものの、新規事業所の来所対応や近隣市の事業所見学(同行等)をさせて頂く場面があった。また、今年度は特別支援学校や児童相談所、病院(退院後のサポートの依頼)等からケース会議への参加依頼、各関係機関と継続した情報共有が必要なケースも複数あるので連携を意識して正確な情報共有に努めた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染防止への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・相談員の検温の実施[午前・午後]・訪問や来所対応はなるべく控える。訪問・来所や同行支援等が必要な場合は換気や手洗い、消毒、マスクの着用。※相談者様へも検温や消毒のご協力を頂いている。・来所対応時は対面を避け、2m程の距離を空ける等して感染防止に努めた。・かなめ(生活介護)と相談し、動線の短い場所[2階作業室]での会議、来所対応を心掛けた。・緊急事態宣言前後でかなめ(生活介護)と今後の対応について共有。
今後の課題
<p>○相談員個々の知識やスキルの向上。 支援の柔軟性、幅広い情報や知識を得ることで様々な角度から必要なサポートを提案できると考える。</p> <p>○特定相談支援事業所をはじめ、福祉サービス事業所との関係構築。 ケースに対して複数の関係機関でサポートするということは増えているが、縦割り感がある。</p> <p>○社会資源の活用 相談者が抱える課題や問題について全てを福祉サービスで補うことが難しい場合も多い為、公的な制度以外のもの(ボランティア団体、有償サービス等)も柔軟に活用できるように既存の地域資源の理解を深める。</p>
来年度に向けて
<p>○相談員のスキルや知識を高め、質の高い相談支援を目指す。</p> <p>○情報量の多さ、活きた情報提供を心掛ける。</p> <p>○複数の問題を抱えているケースについては相談員間で共有し、対応を検討。方向性の調整を図りつつ支援にあたる。</p> <p>○1つ1つのケースにおいて自分の役割を理解すること。関係機関との情報共有を確実に行うことで、福祉サービスの利用がスムーズに進むように心がける。</p>

【その他外部団体出向】

- ・越谷市地域自立支援協議会（全体会）
- ・越谷市地域自立支援協議会計画相談部会
- ・越谷市地域自立支援協議会知的障がい専門部会
- ・越谷市知的障がい福祉関係事業所連絡会
- ・越谷市障害者共同受注ネットワーク（全体会）
- ・越谷市障害者共同受注ネットワーク受注部会
- ・越谷市障害者共同受注ネットワーク販促部会
- ・吉川市障害者介護給付審査会
- ・埼玉県発達障害福祉協会評議員会
- ・埼玉県発達障害福祉協会総務委員会
- ・埼玉県発達障害福祉協会利用者支援委員会
- ・埼玉県発達障害福祉協会青年部会